

町政懇談会 質疑応答・意見の要旨の公表

令和5年度を初年度とする第2次総合計画（後期基本計画）の素案の概要を説明し、住民から意見や要望を伺うため、町内6か所において町政懇談会を開催しました。

実施日、参集人数は次のとおりでした。

（質疑応答・意見の要旨は次ページ以降）

（人）

日 程	会 場	参集人数		
		男性	女性	合計
12月19日（月）	若畑公民館	6	2	8
12月20日（火）	新町公民館	8	1	9
12月21日（水）	旧新田郷地区公民館	8	1	9
12月22日（木）	沢内庁舎	4	2	6
12月23日（金）	湯本公民館	5	1	6
12月25日（日）	湯田庁舎	10	0	10
	オンライン			13
合 計		41	7	61

町政懇談会 質疑応答・意見の要旨

日時： 令和4年12月19日（月） 18:30~20:00

場所： 若畑公民館

参加者： 8名（男6名、女2名）

町出席者： 町長・副町長・教育長・総務課長・税務課長・学務課長・健康福祉課長・町民課長・保健師長・事務局（企画課長・刈田・高橋）

●意見交換（副町長進行）

副町長の進行で、意見交換が行われた。以下、質問及び回答、意見等の要旨。

発言1（質問：景観形成について）

- ・景観形成プロジェクトについての説明の中で、「西和賀らしい景観」、「景観を阻害している要素」とあるが、わからないので教えて欲しい。

（事務局）西和賀らしい景観は、水田風景などの農村景観が西和賀らしさといえる。空き家や管理されない公共施設等があることで、景観を阻害している。

（町長）産業や雪、ダムや山など、いろいろなものを積み上げていった先に西和賀らしさができる。山の間に川が流れている景観はあまり他になく、西和賀らしさといえるだろう。景観を阻害するものとして、空き家や壊した方が良くと思われる公共施設があると思う。

発言2（要望：温泉施設について）

- ・町長挨拶の中で、温泉施設の話があった、沢内バーデンも見直ししていきたいと発言があったが、会議などの使用まで回復してもらいたい。これから何年かで見直ししていくと思うが、宿泊施設まではいらないが、祝賀会などができるようにお願いしたい。

（町長）沢内バーデンを運営していたエステックという会社の精算があった。そのため、宴会等は中断を余儀なくされた。これをどう再開していくかを、今考えているところである。コロナの影響もあったと思われるが、日帰り入浴のみとなっている。現在は産業公社の運営で、収支的にはなんとかなっている。しかし、エステックが事業をやめた際に、厨房機器が撤去され、現在はない状態であり、浴室も改修が必要で、億単位の費用がかかる。志賀来での沢内バーデンの位置付けについても、中長期の検討が必要な状況にあり、今、公社と検討しているところです。

発言3（質問：計画全体について）

- ・書かれていることはどれもすごく大事だと思う。3年間でこんなに色々なことを全部改善できるものなのか。どういうふうに進めていくものなのか教えて欲しい。

（事務局）今回お示ししたものは、町全体をこういう方向に進めていくということで、それぞれの目標達成に向け事業に取り組んでいくわけですが、全て100%とは行かない。この3年間で着手しようとする

事業もあれば、これまで事業を進めてきて途中段階の事業やこの3年間でゴールを目指そうとする事業もあり、それぞれの取り組みには進捗があります。全てできれば良いが、限られた人材、限られた財源の中での取組ですので、それぞれの事業について毎年見直し改善をして取り組んでいくということ。できるだけ、この目標に近づけていくということをご理解いただきたい。

発言 4（質問：子育て支援について）

- 健康に暮らすまちその2に「子育て環境の充実」とあるが、具体的にどういうことか。国では実際に、子供を産んだら50万円給付とかあるが、若い人たちが西和賀にいないのではないかと。西和賀町として、出産、子育てについてどういう魅力があるのか。

（事務局）事業的にどういうことをするかということだと思うが、乳幼児検診、歯科指導、児童手当などの給付の事業。今検討しているのは、0歳児への支援を考えている。

（学務課）国では3歳児以上が保育料の無償化としているが、町では、3歳未満の支援も行っているほか、学童保育の対応もしている。0歳児保育については、乳児の部分になるので、施設や人の対応を今後検討していきたい。

発言 5（質問：出産への給付について）

- 出産に対してはないのか？子供一人産むのに50万円かかる時代。子供を育てるということでは出産費用も負担になる。そういう不利なところに支援が欲しい。国の制度はあるが、町としてははないのか？自分は子どもを4人育て、3人が家庭を持っても、子どもは1人しか産み育てられないでいる。

（健康福祉課）町単独としては出産への給付はない。12月の国会の予算が通った段階で、妊娠の届出時5万円、出産時5万円支給が決まり、町としては3月の補正予算で対応したい。町独自というところは、みなさんからのご意見をいただいて考えていきたいと思っている。

（町長）色々支援はあるが、もっとパンチ力のある施策をとということだと思う。西和賀で子供を育てるときに、都会では暮らせない良いものがあると感じており、その辺の魅力をもっと出していけば良いのではと思っている。

（副町長）町としては、かなりの部分で支援をしていると感じている。お祝い金でいくのか、保育所の無料化でいった方がいいのか、その時々で考えて取り組んでいる経緯がある。どの方法が子育てに良いのかで予算を立ててきている。

発言 6（質問：保育の支援について）

- 今、全国的に3歳以上は保育料無償となっている。西和賀町は一歩進んで3歳未満児もということはないのか。

（学務課）副食費は国では無償にならないが、町としてはその部分も支援している。3歳未満については、そのような制度はないが、今後議論を持って検討していきたい。

（副町長）旧沢内には3箇所、旧湯田町には2箇所の保育所を維持してきたことも大きいと思っている。

○除雪について

（副町長）今年の除雪は、いきなり除雪になって、体も慣れてないと思うが、どんな感じか。今日の積雪

量は上野々で 100 センチ。一気に増えた。

発言 7 (意見：各々除雪について)

- 県道の除雪をしているが、朝見れば、ちゃんと除雪している。今朝も 20 センチ前後積雪はあった。
- 高下からこっちは少ない。
- 福祉除雪の案内があった。申し込む人は各自対応するだろう。
- 今年は除雪方法が変わった。業務委託になった。
- まだ除雪に慣れていないようで、途中で時間になったからと帰って行ってしまった人もいたようだ。
- 除雪を委託された若者はやる気満々のようだ。

(副町長) 住んでいる人も大変だし、除雪している人も慣れるまで大変だと思う。

○景観について

(副町長) 景観的な部分で、使われなくなった施設は解体しないといけないと思う。もちろん、解体には費用がかかるが、空き家なども壊していく方向で取り組んでいくことが多くなったかなと思う。あった家がなくなっているというのがあるが…。

発言 8 (意見：空き家の解体等について)

- 県道沿いは解体が目立つ。

(副町長) 意識的にみなさん取り組んでいると思う。建物が壊れて困っているというところはあるのか？

発言 9 (質問：建物の破損等について)

- 昨年も雪の重みで壊れているものがあった。助成金というのは初耳だった。どういうものか？小屋とか母家とか制限はあるのか？

(事務局) 解体する費用のうち、最大 25 万円まで助成している。昭和 56 年以前に建築されたもので、住まなくなって 1 年以上経過している建物が対象となっている。

(副町長) 現在の対象は、昭和 56 年以前に建築したものとなっているが、今後、築年数だけでなく、対象については見直しも検討したい。

(町長) 助成金の申請状況は、例年 2 件ほどだが、今年は 7 件と大幅に増えている。周知されてきたと思っている。

発言 10 (質問：情報発信について)

- 2 年前に移住してきた。町の公式 HP について、移住に当たって情報を取得しようとしたが、保育所や小学校の情報にアクセスできなかった。他から移住したいと考える人は、情報にアクセスしたいと思う。管理や更新も大変だと思うが、「学校の HP もないようなところについて大丈夫？」のように不安になる人もいると思う。HP は、移住を検討している人にとって、大事な情報源だと思う。

(教育長) 東京都では、都立の学校について、情報量は多くないが、一律のフォーマットで HP を作成し

ている。西和賀も北上市もHPを作っていない。西和賀町では、児童生徒数から規定では、特別支援員を一人しか配置できないが、3人配置している。そういうことはもっと発信できれば良いと思っている。
(副町長) 確かに、今はネットで調べる時代。正しい情報を届けられるようにしたい。

○マイナンバーカードについて

(副町長) マイナンバーカードについて、近所で困っているような話は聞いているか。心配だと感じている人はいないか。そういう方がいれば、町に相談してほしい。

発言 11 (質問：マイナンバーカードについて)

- ・「ポイントで釣ろうとしている。これは、どういうふうになるのか。全ての情報を握られるのだろう。」と考える。
- ・病院でも、提示を求められる。
- ・子供たちのカードにも写真が付いているが、成長していく。どうなるのか。

(町民課) カードの更新がある。18歳未満の場合は、5年で更新となる。大人は10年で更新する。普及状況に関しては、町の交付率でいえば、11月末で36.5%である。

発言 12 (意見：マイナンバーカードについて)

- ・写真を撮るのでネックになっている。高齢者はスマホも持っていない。

(町民課) 郵便局で写真撮影から申請まで手伝ってもらえるように今進めているところだ。できるようになったら、告知をするので郵便局で申請してほしい。

(事務局)：マイナンバーカードで保険証とつながれば、高額医療費がかかった時に、改めて申請せずに負担しなくてよくなるとか、健康診断のデータの利用などもできるようになる予定のようだ。

(副町長) 町政懇談会は年に何回かになるが、すぐ答えられる部分はお答えできるし、持ち帰って検討することもあると思う。是非、今後のご意見を出してほしい。

町政懇談会 質疑応答・意見の要旨

日時： 令和4年12月20日（火） 18:30~20:00

場所： 新町公民館

参加者： 9名（男8名、女1名）

町出席者： 町長・副町長・教育長・税務課長・上下水道課長・学務課長・病院事務長・健康福祉課長・
町民課長・事務局（企画課長・刈田・高橋）

●意見交換（副町長進行）

副町長の進行で、意見交換が行われた。以下、質問及び回答、意見等の要旨。

発言1（質問：総合計画と行政改革大綱について）

- ・第2次総合計画と第3次行政改革大綱は同じものか？どういう風に考えれば良いのか。よくわからない。

（事務局）第2次総合計画を進める上で財政面は必要不可欠であり、総合計画の下支えとして第3次行政改革大綱を合わせて策定している。前回も同じように作成した。計画自体は別々に策定している。本日の資料でいえば、3ページの「まちの将来像と目標」の3段目までが基本計画、一番下が第3次行政改革大綱である。

発言2（質問：前期計画の評価について）

- ・前期計画の実施事業等の反省、検証結果について、聞きたい。

（事務局）前期計画の評価については、できるだけ新たな計画についてご意見を伺いたいと考え、今回の資料には添付しなかった。後期計画の策定にあたっては、基本構想審議会や、役場職員内のワーキングチーム等で計画を検証、評価した上で策定している。前期計画の中で、目標の達成の指標として78の指標について検証した。事業の効果や課題等と今後の方向性について検討している。

全部で78の指標のうち、

まちづくりの目標1保健医療福祉領域では22の指標があった。そのうち、50%以上達成したものが13指標で、59.1%、

目標2教育文化領域では、11の指標があり、そのうち50%以上達成した指標は3指標で、27.3%、

目標3産業領域では、22の指標があり、そのうち50%以上達成した指標は18指標で、81.8%、

目標4生活領域では23指標があり、そのうち50%以上達成した指標は15指標で、65.2%となった。資料としてお渡しはしていないが、各指標について、75%以上達成、50%以上達成、25%以上達成、25%未満という形で◎○△×というような形で評価し、それぞれ課題や今後の対応の方向性について検証した。中には、特定健診の受診率とか伸びているものもあるし、人が集まる事業については新型コロナの影響で伸びなかった。

（副町長）人を集めての部分では、新型コロナで開催できず、目標をクリアできなかった部分もある。

発言3（質問：空き家対策について）

- 空き家対策（11ページ）について。解体するときに、何か費用補助などはあるのか。

（事務局）空き家を解体するときに、町として高額ではないが補助金を出している。条件はあるが、上限25万円で補助している。今、条件の若干の見直しを行なっているところだ。

発言4（質問：財政の健全化について）

- 財政の健全化の部分で、財源確保の、未収金等が財源の核になるものか

（事務局）取り組まなければならないものである。取り組みとすると、例えば、水道料金の値上げなども検討はしているが、その前に、回収しなければならないお金は、きちんと回収しなければならないということで、合わせてやっていく必要があるものなので掲載している。

発言5（質問：適正な職員定員管理について）

- 適正な職員定員管理とあるが、適正な職員は何人くらいなのか。検討はしているのか。

（事務局）職員定数については、計画を策定している。その計画に沿って採用等を行なっている。

（副町長）何年か後に、その人数にするという目標、計画が立てられているが、今は途中段階にある。職員人数については、事業の状況等（コロナ対応など）で、若干の波がある。目標を定めて、それに向かって進めているところだ。

発言6（進行からの指名：意見要望）

- 計画の内容にインパクトがない。関わっていた時期から、空白がありすぎて、繋がりがちょっとわからなくて、考えようにも考えられない。町民向けには、もっとわかりやすい説明をしてほしい。役場職員内ではわかっているのだろうが、住民にはもっとわかりやすい説明をしてほしい。

発言7（質問：まちの将来像～人口減少の歯止めについて）

- 3ページに「まちの将来像」が示されている。これを全てやれば、本当に町民が健康で幸せを実感できるまちになるのか。目指す姿ということだが、実現すれば、どれくらいの人口がここでとどまるのか。人口減少はどこでも同じことだが、幸せを実感できるのであれば、西和賀に人がたくさん来ると思うが、そうは思えない。
- 後期は令和7年までとなっているが、これをやれば、どれだけ人口がとどまるのか。人口減少を食い止めてほしい。

（事務局）定住関係については、もう一つの計画「まち・ひと・しごと総合戦略」と合わせて取り組んでいるが、人口は増えないだろうという試算である。計画内での数値については、今、手元になくお答えできかねる。ただ、町出身者への冊子の送付等から関係人口を増やすなど、町外の人といかにつながっていくか取り組んでいる。色々な情報発信で、関係人口、交流人口を増やすという方向である。

（副町長）今日、ちょうどふるさと振興課で作成した「志賀来ふ」を見た。「ふるさと志賀来で農業を始めませんか？」などの記事がある。関係人口を作りながら、ということと、総合計画の中で、一

一つの取り組みで、少しでも人口減少がとどまるようにすすめていくということだと思う。

発言8（意見：人口減少による学校の統廃合について）

- ・人口減少となれば学校の設置にも影響。中学校では、部活もままならないのではないかと。子供達のために前向きに考えていかないといけないのではと思う。

（教育長）今も出生数を計算し、先進事例視察も行なっている。学校については、「あり方の検討委員会」を立ち上げていきたい。これからの西和賀町の教育を考えていかなければならない段階。そのことについても、皆さんの考えを吸い上げながら、より良い方向が示されれば、いろいろな形がある。小中一貫校や小学校合併など、中学校の部活動については、「地域部活」といって部活動を学校から離していく案など。国レベルでもまだ試行錯誤の段階である。現在、野球にしても、今年の中学校の新人大会も合同チームを作ってやっている。離れていてもお互い切磋琢磨しながら頑張っている。

発言9（質問：志賀来開発について）

- ・志賀来開発とはどんな開発を考えているか？

（町長）今までの経緯を鑑みて、取り組んでいかないといけないと思っている。元のようにはならないと思うが、今、公社と考えているところです。

発言10（質問：総合計画の進め方について）

- ・具体的なものが示されず、バフとした計画で理解できない部分もあるが、目標に向けては、先程の検証の指標を100%達成するようにしてから次に進むものか。

（事務局）前期から引き続き継続する事業もあるし、前期で終わった事業もある。後期で新たにに取り組む事業もある。大きく考えると、継続している。

（副町長）全体では平成30年から8年の総合計画で、中間見直しというところだ。コロナの影響で検証が1年伸びている。

発言11（質問：除雪体制について）

- ・道路環境の整備について、町内の除雪体制について、除雪箇所を減らしていったりしているのは、人為的なものなのか、財源的なものなのか。人がいないからという説明ではダメだ。

発言12（要望：除雪体制について）

- ・新町の中のほうの除雪について、週1回ほど除雪は入るが、新潟ほどではないが渋滞になる（大野あたりまで）。よろしくお願ひしたい。

（事務局）除雪体制は人員確保が難しくなっている。40人計画のうち30人しか確保できない。人員確保のため、町内での確保が難しければ、町外県外も含めてインターネットなども使って募集していきたい。これまでは町が直営で職員を採用して行っていたが、企業に業務委託をして除雪体制を維持していくよう、みなさんの迷惑にならないような方法で対応している。また、県道と町道の区別なく除雪体制を組めるよう、県との連携協議は今やりとりしているところである。維持体制に努める。

発言 13（質問：除雪体制について）

- 県道の除雪もさることながら、老人宅地の周りの除雪も大変だ。朝だけでもと、人材バンクから頼まれて除雪している。今後、そういう人がどんどん増えてくると思う。企業が除雪するというチラシが入ってきたが、それ以外でも、朝の除雪について考えていかないとダメなんじゃないか。町長が力を入れると話していたが、その辺の取り組みはどのようにされるのか。

（町長）今までの除雪を守るということもあるが、量的な制限は、暮らしの中での除雪が問題になってきている。高齢者の玄関の除雪など。農村地域では、中山間地域直接支払い補助金で取り組んでいる地域も出てきている。そういう地域活動を応援していきたい。中山間の補助金が使えないところには、どういった方法ができるか、今その方も計画を作成中である。個々の集落は、中山間ほか補助金などを使っただけで進めさせていたでいる。

発言 14（質問：集落支援員について）

- 今年の春から集落支援員が配置されている。集落支援員を配置したことについての成果はどうか。

（副町長）個々に集落支援員が取り組んできたことは確認しながら進めている。取り組みの結果をどういう形で、みなさんにお伝えするかは検討中である。

発言 15（意見：集落支援員について）

- 新町は、集落支援員には、一生懸命やってもらって感謝している。色々取り組んでくれている。色々なアイデアも出してもらっている。一生懸命やってもらえるように、住民側もお願いしていくことも大事だと考えている。

町政懇談会 質疑応答・意見の要旨

日時： 令和4年12月21日（水） 18:30~20:00

場所： 旧新田郷地区公民館

参加者： 9名（男8名、女1名）

町出席者： 町長・副町長・教育長・ふるさと振興課長・建設課長・観光商工課長・生涯学習課長・病院事務長・農業振興課長兼林業振興課長・事務局（企画課長・刈田・高橋）

●意見交換（副町長進行）

副町長の進行で、意見交換が行われた。以下、質問及び回答、意見等の要旨。

発言1（質問：集落支援員及び空き家対策について）

- ・10頁、コミュニティ活動の推進にある集落支援員の配置について、まだ6か月だが、配置による効果はどうか。教えてほしい
- ・11頁に、空き家活用の支援と管理不全空き家の解体促進とあるが、その具体的な取り組み内容は、どのような内容か。

（ふるさと振興課）今年4月より集落支援員が入り、湯本公民館での研修を経て、その後、7~11月は、旧小学校単位の各地区に入り、地域の役員会、地域連携の会議等に参加し、地域の状況と課題の把握に取り組んできた。冬期間となったため、現在は、川舟センターに3名、湯本のセンターに3名を配置して活動を継続している。特に、地域からの要望事項について把握し、地域の声を行政につなぐ役割を果たしている。デジタル化の推進に向けては、スマホの操作支援、マイナンバーカードの申請支援、ポイントの付与など、さらにメルカリについても説明している。地域の活動に、若い人や女性が参加しない傾向の中、意見交換の企画を行って、意見聴取に努めている。

空き家の活用や撤去について、現状把握のためには、地区の役員に協力いただき、現場の確認を行った。その結果、122件、このうち、倒壊の危険なところが33件ある。活用可能な状況、貸物件の情報を移住者に提供し、危険な家屋については、撤去を進めて頂くように補助金を用意している。撤去費用のうち、上限25万円の範囲で用意しており、これまで、かなりの数で進んできている。

発言2（意見：道の駅の整備について）

- ・農業関係の課題は色々あるが、農産物を販売する場所として、道の駅が有効と考えられる。旅館が減り、湯本に1軒しかなくなった。販売先が減ると生産する側にも意欲がなくなってくる。新たに道の駅を整備し地域の人が集まって、盛り上げていくことが大事ではないか。先ほどの説明では検討ということだったが、早めに整備していただくよう、県に要望していくことが必要ではないか。
- ・若者が望んでいるものの一つに、コンビニがあげられる。道の駅にコンビニを整備することで、利便性が向上することになるだろう。それも含めて、早めの検討をした方がよい。

（建設課）現状について、説明したい。昨年107号では、2度目の通行止めとなった。それによって、道の駅が長期の休業となったことに対して、当時の細井町長が移転を検討したいとし、それが報道され、

議会でも話題となった経緯がある。現在の道の駅は、道路管理者の県と当時の湯田町がお金を出し合って作った一体型という方式で整備したものである。道路管理者と立地自治体が連携するのが一体型で、この他に、立地自治体が整備する単独型という方式もある。一体型のため、どこかに移転する場合、岩手県の同意が必要となる。このため、県との協議、調整を行っているところである。今年の実施項目で、移転について要望している。しかし、岩手県とすれば、現在、仮橋を設置して通行できるようにしたことから、道路として機能しており、このタイミングで即座に移転を了承する状況ではない。交渉は難航している状況である。そこで、町として、あり方を検討していく。議会の方々との協議も含めて、現在進めているところである。

発言 2 (続き)

- 旅館も減っている。温泉施設も閉鎖している。観光の目玉はなにか。集客には、道の駅が必要だ。

(建設課) 道の駅の整備は、重要であると捉えている。現在よりも交通量の多いところに、産直施設を併設したものを移転したいと考えているものの、思うように前に進めない状況にある。

発言 2 (続き)

- 国や県に頼って、町の活性化につなげていくことが大事だ。頑張ってもらいたい。

(農業振興課) 現在、産業間連携推進会議を開催し、生産、加工、サービス業のメンバーで検討してきた。その中で、拠点施設の整備のあり方について、道の駅の移転、北部の拠点整備、既存の産直施設との関連付け、それらを含めて、町が南北に長いという特徴を踏まえ、バランスの良い拠点作りが必要との考え方をまとめて、9月に町に提出しているところである。また、拠点施設につながる、生産や加工の振興についても、考え方を整理して、進めていくことで、地域の活性化につながっていくと考えている。また、観光の振興には、人を呼び込むことが大事なので、農業が頑張ってもらって、人を呼び込んでいく方向で取り組んでいる。地域の皆さんと、一緒に頑張りたい。

発言 2 (続き)

- 合併して10年以上になっているのに、沢内、湯田、お互いの交流が活発になるような取り組みを行うことが大事ではないか。町の行うアンケートでも、湯田、沢内という回答項目があるのはどうなのか。両者の垣根を取っ払って、交流していくことが大事だ。学区についても、昔の学区にこだわらなくても良いのではない。他の大きな町では、南小学校・北小学校という呼び方もある。

(副町長) 学校名の件は、それぞれ関係者が話し合っただけで決めることになるので、全く新しいものに変更するのも、そのときの判断となる。地区の説明の中で、旧学区という表現が便利だという面もある。ご指摘のように、湯田、沢内の垣根をとるといった意見は、理解できる。

発言 3 (質問：告知放送、地域の垣根、地域ブランドについて)

- 12 頁、大雪で停電になることがある。告知放送システムは、電源が落ちても大丈夫か。ネットワークのシステムは、とても良いと感じている。
- もう一点、町外から移住してきたので、沢内も湯田も気にしていないが、いろいろな人の話を聞くと、

良い意味で絆の深さを感じる。しかし、年配の方々からそのまま若い人に伝わることで、連鎖して、消えていかない部分もあるのではないかと。年配の方々が良いとしても、次の世代では、垣根をなくすように、一緒に交わるイベントを行って、年代別で集まれるようなイベントを頻繁に行って、地域を越えた状況、シャッフルすることが大事なのではないかと。

- 8頁、地域ブランドについて。道の駅の再開に伴って、町内でものづくりを行っている5人を紹介するブースを作り、紹介してもらうようになった。町外の人を訪れ、「西和賀、やるじゃん」と感じてもらえるような展示内容、アイデアを出し合って、「N※クラフト」というコピーをつけた。1人よりも、5人集まると、パワーが出る。道の駅の展示をみて工房を訪ね、クラフトマンと話をし、買い物をするといい機会につながる。また、例えば、町内にカフェも増えているので「N※カフェ」、農業であれば「N※ファーム」といった統一的な企画で、おしゃれなパンフレットを作って、発信していったらどうか。あくまで、アイデアですが。（※：雪のマーク）

（事務局）告知放送は、各世帯が停電したときは止まってしまう。基地局はバッテリーがあり、大丈夫である。従来の電話であれば、停電でも使えるが、告知放送はそうではない。災害の際には、各地区の公民館等で、情報提供については対応させていただく。

年代別のイベントについて、過去の例では、類似のものとして、住民参加の運動会は開催してきた。今後、年代毎の開催はアイデアとして良いと思われる。ただ、若い世代の場合、スマホでのコミュニケーションが増えてきている状況にあり、どんなイベントが良いか、よく考える余地がある。「N※クラフト」とは、良い響きと感じた。ユキノチカラとの連動も含め、今後の検討課題としたい。

（教育長）イベントの実施については、あまり手間をかけないような取り組みが望ましい。クラブ活動では、野球で合同チームができる。演劇に関しては、銀河ホールで沢内と湯田の取り組みの交流ができる。湯田中が岩手県中学校総合文化祭舞台発表部門に出場するので、それを契機に交流したい。コミュニティスクールの取り組みでも、情報交換、両者の交流の余地がある。

発言3（続き）

- 西和賀の子ども達が一丸となって、盛岡で活動するというのもあるのでは。

（教育長）歌を練習して、合同で合唱するという活動もあるだろう。

（建設課）クラフトの展示について、道の駅の再開時に見て、垢抜けしたおしゃれな良いコーナーであると感じた。新しい道の駅でも是非、展開していければと思う。

発言3（続き）

- 展示にあたっては、産業公社にお金がなかったため、クラフト5名による取り組みとして、みんなでかかった材料費を割り勘で負担して行ったことが、むしろ良かった。いわゆる依存型からの脱却の例といえるだろう。

（観光商工課）関連して、情報提供したい。過去に、町内のものづくりの人に声がけしたことがあった。当時、町内に発信できる場所を作りたいと考えたものの、実現しなかった。行政だけではできなかったことを今回やっていただいた。費用のかかる取り組みについては、ビジネスチャレンジの補助事業があるので、今後、各事業者で活用してほしい。

発言 3（続き）

- ・展示の場を提供いただき、ありがたかった。工房が火災の後で、沈んでいた人もいたので、回復するきっかけになったと思われる。

発言 4（質問：景観形成、生涯学習、西高について）

- ・景観の形成について、説明の中で何度も出てきた。これから方針を作るとのことだったが、現在の段階での考え方やどのようなことを目指すのか、教えてほしい。
- ・6頁にある生涯学習の指導者育成について、何の指導者なのか。指導者を育成する指導者は誰か。
- ・6頁の下段、西高の部活支援について。全国的にも、学校の部活を地域にとという動きがある中、具体的な考えがあれば知りたい。

（町長）景観形成について、西和賀の要素としては、色々あり、四季の変化、産業活動による自然への働きかけ、様々な要素を含むトータルのものとして、西和賀の景観があると考えている。住民の皆さんとの話し合いを重ね、望ましい姿を積み上げていきたいと考えている。地形的には、奥羽山脈に囲まれ、川が流れている、山河一帯、他にない西和賀の景観となっている。それらを踏まえて、今後、方針、条例化を目指したい。また、景観形成に向けた努力が大事と考えている。取り除く要素としては、空き家、看板、ゴミなどを考えている。取り組みにあたっての、コンセンサスづくりも進めていきたい。

（生涯教育課）生涯学習の指導者について、現状では、外部講師にお願いしている部分が多いことから、今後は町内人材の活用を図り、自分たちで企画を考えて運営していくような方向性を考えている。町民の学習機会をもっと増やしていきたい。

（教育長）西高では、ポート部に力を入れていきたい。インターハイの競技会場は錦秋湖であり、これまで伝統的に取り組まれ、地域にも浸透しているという部分があり、地域からの応援も得られる競技と考えている。また、小中ではどこでもやっていない種目であり、スタートラインが一緒という点も有利な面と捉えている。国では、部活動を地域での取り組みにという方向を示しているものの、県内では、岩手町のホッケーがモデル的に取り組まれている唯一の例である。県レベルでは、準備がこれからという状況にある。今後、西和賀における取り組みを考えていく必要がある。

発言 5（質問：農業振興について）

- ・8頁、農林業の推進について。減反農地への水張り、水田交付金の関係、どういう方向になりそうなのか。転作農地を水田化する取り組みについて、すでに町内で行われているケースがあるのか。

（農業振興課）水張りをしていない水田を交付金の対象から外すという件について、最近になって、水田の畑地化について、助成金という話題が報道されているが、未だ現場には降りてきていない。基本的な国の方針は変わらないかと考えている。今後、制度運用上の細部の調整があるものと思われるが、まだ見えてこない。町としては、R5~6年に、人・農地プランの見直しを行い、国から示されている地域計画の策定に対応する。その中で、一筆ずつの検討を行うことになる。その際、今後の農地の利用について、地域で話し合っ決めていきたいと考えている。必要な対策を考えていきたい。国からの方針については、皆さんにも伝えていきたい。これまで行ってきた座談会については、コロナ禍で中断していたが、実施して話し合っしていきたい。

発言 5（続き）

- 水田交付金がだめでも、畑交付金なら良いのか。財務省の考えはよく分からないが。今後の農業を考える際、町独自の対策も含めて、考える必要があるのではないか。リンドウ栽培など、これまで頑張ってきたのが、ここでダメになってしまうのは避けたい。実際のところ、水を張って田んぼに戻すというのは大変なことだ。

発言 6（質問：森林環境教育について）

- 6 頁、地域との協働による豊かな心の育成に関連すると思われるが、森林環境教育のサポートに入っている。実際に、小学生の興味を持つ姿に接してきた。リアルな教育がとても良いと感じている。教育の環境としては、都市部に比べ恵まれている面がある。少人数教育のなかで、ブランドキッズ、スペシャルな可能性を持って育っていきと感じている。自分の子供、四歳児がいるが、のびのびと遊んでいて、とても良い環境だと感じている。ここで育った人が、将来、日本や世界で活躍できる人になってくれれば、地域の誇りになると思う。強みを生かすためには、学校だけでなく、外部講師による学ぶ機会が大事だと思う。森林環境だけでなく、他の分野、例えば、音楽、演劇、スポーツ、料理、くすりの専門家など、学校の先生だけでなく、実社会で活躍しているプロの人たちから学ぶ機会があると、貴重な経験になる。身近な環境だけでなく、広がっている世界を知る機会となる。様々な体験をすることで、将来、町の外に出て、世の中の荒波、競争社会の中に入っても、生きていける真の強さが培われると思う。都会の暮らしで挫折することがあっても、西和賀に戻ってきたらリセット、リカバリーできる環境があれば、子ども達の成長に良いと思う。

（教育長）イエナプラン教育、一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶオープンモデルの教育がある。小規模が良くない、適正規模 35 人学級が必要というのは、ナンセンスと感じている。1 人 1 人が大事にされている環境が、西和賀にある。そのための、組織づくりが大事で、森林教育、演劇など、西和賀でしかできないものがあると考えているので、システムを作り好奇心を伸ばす必要があると。今のお話は、心強いご意見だった。また、外に出ても大丈夫な人づくりには、自己肯定感をつけることが大事である。コミュニティスクールの取り組みも含めて、地域の方々と共にできることがあると考えている。

発言 6（続き）

- キャリア教育の場として、もっともっと社会人から話を聞いたり、色々と体験したりする機会を持って、活躍できる子供を育ててほしい。

（教育長）西和賀の教育環境については、ヘリオスビールの社長さんから、英語教育が弱いのでは、という指摘があったものの、それ以外は何でもあると感じている。

発言 6（続き）

- 林業の町なのに、十分カラーが出ていないと感じている。子供たちが海外の林業を見に行ったり、情報交換したりするような、学びの機会を作っていくことも大事ではないか。

（農業振興課）森林環境教育にご協力いただいております、改めて御礼申し上げます。普段、取り組みを行っている我々も、楽しく取り組んでいる。今後も地道に続けていきたい。人材育成に関しては、海外の森

林事情について、学ぶ機会を作ることで、林業に対する考え方も変わってくるだろう。引き続き、環境教育を実施し、林業や木に関係する仕事につながるような、取り組みを継続したい。

発言 7（意見：子育て支援について）

- 子どもの人数が減っている。一方で、財政の健全化ということで、西高の魅力化にける予算がある。高校も良いが、むしろ、子どもが増えるように、お金をかけることが大事ではないか。この点は、意見なので、回答は不要である。

（町長）今日は、様々なご意見、前向きな提言を頂き、御礼申し上げます。取り組みの結果も大事だが、目標に向かって、住民の方々と一緒に取り組みを進めることも大事と考えており、ご協力をお願いしたい。

西高魅力化の取り組みと子育て支援、どちらも進めていきたい。西高は、存続することが大事であるという判断の下での取り組みであり、ご理解頂きたい。

空き家対策については、周知が進み、今年は補助金の利用が3倍となっている。条件については、より使いやすいものにして、一層の利用を促したい。

道の駅については、移転場所、規模、機能などの検討を進めていく。県への働きかけを継続し、仮に道の駅の移転とならない場合の対応についても、取り組みを進めていきたい。

地域ブランドの推進については、先ほどのご意見も参考にして、進めたい。ユキノチカラの町内への拡がりについて、疑問視する声もあるが、雪国文化研究所の蓄積、雪あかりの実践など、背景も含めて、推進していきたい。

景観形成に関しては、西和賀らしさが浮かび上がる取り組み、トンネルを抜けて西和賀に入ると独特な景色が広がっているというイメージも大事にしたい。

水田交付金については、国の方針が硬い印象がある。ただ、地域事情を踏まえた農水省の取り組み、畑地化の方向などが示されるものと考えている。

JR 北上線に関しては、採算性の課題があると指摘されているが、従来の取り組みに加え、北上線存続に向けた取り組みを進めたいので、ご協力頂きたい。

町政懇談会 質疑応答・意見の要旨

日時： 令和4年12月22日（木） 18:30~19:40

場所： 沢内庁舎

参加者： 6名（男4名、女2名）

町出席者： 町長・副町長・教育長・税務課長・上下水道課長・学務課長・病院事務長・健康福祉課長・町民課長・事務局（企画課長・刈田・高橋）

●意見交換（副町長進行）

副町長の進行で、意見交換が行われた。以下、質問及び回答、意見等の要旨。

発言1（質問及び要望：インフルエンザ予防接種の助成について）

- ・総花的で具体性が感じられないが、具体的なところで、健康づくり分野の、各種予防接種について。インフルエンザ予防接種時の助成は町として行なっているのか。他の自治体ではあるようだが。

（健康福祉課）インフルエンザの予防接種の費用助成については、令和2年度にこれまでの経過や、県内の助成事業の状況も踏まえながら検討してきたところだ。町内の医療機関の先生方のご意見を聞き、毎年、接種費用を統一し、1回接種の金額を3千円としている。みなさんの接種しやすい金額でということと話している。他町村の状況を見ると、3千円くらいのところもあれば、医療機関によってはもっと高く設定しているところもあり、それぞれの市町村毎には統一されていない状況で、助成を行っているようだ。これまで、高齢者への医療費の助成事業をしているということ自体が、県内でも珍しい取り組みであり、日頃から医療にかかりやすい環境を整えていることも踏まえて、インフルエンザ予防接種については、助成を見送っているというところだ。インフルエンザ予防接種については、お子さんへの助成ということで、2回接種したお子さんについて2千円助成させていただいている。町内の先生方にもご協力を頂いて、3千円にしているというところで、ご理解頂きたい。

発言2（要望：出産時の給付等支援の充実について）

- ・子育て環境の充実について、妊娠、出産と産みやすくする政策もあれば良いのでは。

（健康福祉課）国でも子育ての産みやすい環境づくりの施策を進めており、出産費用助成を42万円から50万円に引き上げようという動きがある。不妊治療についても、これまで自費だったところが、年齢や金額等条件はあるものの、医療費でみようという国の動きがある。今年度、国の予算で、出産と子育て応援の交付金として、妊娠時5万円、出産時5万円計10万円の交付金が国の補正予算で決まった。町としても補正予算対応で、今年度からになるが進めていく。また、皆さんからご意見をいただきながら、町独自のものを考えていきたいと思っている。

発言3（要望：歴史や文化の伝承、観光資源としての整備等について）

- ・地域の歴史や文化の伝承。八幡宮神社の宮司に聞いたら助成は何もないといていた。看板などの設置のほか、3つの寺と神社を観光資源として、町としても整備等応援してもらえたらと感じている。スト

ーンサークルなども発掘して文化を発信してほしい。

(教育長) 西和賀町の文化財、物語などたくさんある。以前、正岡子規のゆかりの地を歩きたいが、わからないと言われたことがある。町内の人も知らないこともあると思う。例えば、分かりやすいように、1枚にマップ化していければいいのかなと思った。今後検討させていただきたい。

発言 4 (要望：公共建造物の定期点検等について)

- ・大雨で近隣(碧祥寺の裏?)が浸水(砂防ダムの下流のマスについて、土砂が溜まってグレージングを押し上げて溢れ出した)県の関係かと思うが、公共建造物の点検も定期的にしてほしい。

(副町長) 県の土木と町の建設課、防災担当が集まって何年かに一回は歩いて回っていた。毎年はやれない。それぞれの地区で、見ていて、異常に気がついた時は建設課へ連絡してほしい。

発言 5 (提言：集落再編等について)

- ・少子高齢化で、太田地区も空き家が増えた。高齢で施設に入居したりしている。活力がなくなってくる。除雪も皆で協力し合いながら、スノーバスターズとも協力して行なっている。町の高齢化を防ぐことは難しいと思う。今後、町全域を除雪についてカバーしていくのは難しいのではないか。ダイナミックなプランとして、集落再編も考えていく必要があると思う。かつての長瀬野の集落移転のようなことや、冬場居住の施設利用なども検討していただければと思う。

発言 6 (続き：集落再編等について)

- ・西和賀町は広い。田野畑村や普代村は小さい。普代村は商店街がある。住宅が密集している。人がコンパクトに集まることによって、活性化するのではないか。点在していたら、商売は成り立たない。高齢者も買い物に行くのも不便だ。六戸商店がやめるような話をしている。地域の商店がなくなっていく。中心となる地域に集約することで、活性化が期待できるのではないか。難しさはあると思うが、1箇所だけでもできないものか。これは、個人の考えではあるが。

発言 7 (質問：後期基本計画の新規施策等について)

- ・前期になかった、新しいもの、後期に初めて登場したというものを教えてほしい。

(事務局) 大きなところでは、重点プロジェクトの内容が変わったことが1つ。各施策では、子育て環境の充実施策の「0歳児保育導入検討」は後期から。医療の充実では「新興感染症への対応」。生涯学習では、「男女共同参画の推進」。商工業の振興では、「地域ブランド化の推進」で『ユキノチカラ』を支援する活動。観光産業の振興は、第2次観光計画に沿ったものだが、「SNS活用による情報発信」や「外国人観光客向け多言語情報発信」、雇用の確保では、「外国人人材の受入支援」。生活領域では、「関係人口拡大に向けた取り組み」をより積極的に進める。「自然景観、農山村の景観の保持のために基本計画の策定」に取り組む。「JR北上線の維持存続に向けた取り組み」が後期新たに取り組む事項である。

発言 8 (要望：空き家対策について)

- ・空き家について、湯本も20件ほどある。道路沿いに15件ほどあり、雪庇がかかって、それを落とす

のに部落で負担をしている現状がある。朝、毎日通勤する時に雪庇を落としておく必要がある。空き家の問題は、維持管理に、家主は最初の1年2年は来るが、あとは来なくなって地域負担になる。これをなんとかならないのか。

- 湯本大橋のところ、玄関口のところに倒壊家屋がある。なんとかならないものか。空き家解体の促進が計画に盛り込まれている。こういうのは、地域ではなんともならない。大きいものは、ワイヤーでくくってあるようだが、雪が積もれば道路にも出てくるのではと感じている。

(事務局) 空き家については、撤去費用として、上限25万円の町からの補助金はある。これを使うには、家主の申請が必要である。来年度以降、もう少し条件を緩和し、金額を増やして空き家撤去しやすくなるよう検討している。潰れてしまった物件については、所有者等の確認等も行なっているところである。誰もいなければ、代理執行として町が撤去することも考えていくことになる。

(副町長) 空き家撤去については、所有者の確認も必要であり、順番に手順を踏んでいる。

○町長からのコメント

(町長)

計画づくりは、生活に関係する広範囲にわたっている。網羅的な計画を策定し、順序立てて行うことが必要となっている。

個々に指摘があった中で、文化財ほか色々あったが、集落の再編の意見があった。全国的にもそう言った市町村があると思う。効率的な面では、まとめて住んだほうが良いかもしれないが、住み慣れたところで近くに畑がある環境が良いということもあろう。どの時点でどうというのは難しい。

雪に関しては、仕組み等について、県とも話し合っている。生活除雪は暮らしていく上で厳しい側面もあり、今年度「克雪計画」を立てている。

空き家問題は、民間のものに公共がどこまで手をかけられるかということがある。皆が納得できる形を取る必要がある。

新しい後期計画になって、これまでと異なる視点としては、「景観」ということを押し出している。集落のあり方というのも、存続していく上で大事だ。集落によって事情も違う。色々な取り組みをしている集落もあり、うまくいっている事例をお互い共有していくことも有効と考えている。

第3セクターに関しても踏み込んだ形で、これまでの課題を見据えて、当面のあり方を模索しているところだ。就任後1年の経過で得られている情報もある。この計画を背景として、住民との対話を重ねて、住民福祉の向上に向けて進めていきたい。

町政懇談会 質疑応答・意見の要旨

日時：令和4年12月23日（金） 18:30~20:10

場所：湯本公民館

参加者：6名（男5名、女1名）

町出席者：町長・副町長・教育長・ふるさと振興課長・建設課長・上下水道課長・観光商工課長・生涯学習課長・保健師長・農業振興課長兼信楽振興課長・事務局（企画課長・刈田・高橋）

●意見交換（副町長進行）

副町長の進行で、意見交換が行われた。以下、主な質問及び回答、意見等の要旨。

発言1（質問：子育て支援ほか）

- ・遅い時間に開催して頂き、ありがたい。子育て支援について。花巻のおもちゃ美術館、横手市の子育て支援施設をみてきた。西和賀町でも、子供を持つ親御さんが預けたり、屋内で遊ばせたりできる場所があると良い。集落支援員さんによる活動が始まっているところだが、子育て世代の声を聞いて、是非、施設の整備をしてほしい。それによって、もっと暮らしやすく、魅力的な町になると思う。保育、託児、ゼロ歳児保育の機能の整備は、大変ありがたい。
- ・空き家の利用方法、対策に関して。自分の作業場の2階を改装して、子供服専門のゼロ円ショップをはじめた。個人でも、取り組みができるので、そういった動きを支援していただくなど、空いたスペースの活用を進めてほしい。
- ・志賀来地区の活性化策という説明があったが、どんな内容なのか。

（教育長）親子で屋内で遊べる場所も重要と考えている。コミュニケーションの場となる。保育や児童の施設について、町全体の出生数が減っている中で、よりよい方向を探る検討を始めている。他の自治体の例では、小中一貫校で機能を確保している例もあるので、来年度検討を進めていきたい。

（ふるさと振興課）町内の空き家については、122件確認している。空き家の定義は、1年以上使われていないところとなっており、住んでいなくても定期的に管理されているところはカウントされていない。そういうケースもかなりあり、状態は良い場合が多いので、利活用していくことが可能と思われる。先ほどのような活用の仕方など、やる気のある方に使って頂くのは好ましい。町として、空き家活用の補助金があり、支援を進めているところである。

（事務局）志賀来地区には、沢内バーデンがあり、以前は、泊まり、温泉、宴会などに対応していた。現在はお風呂だけ利用できる状況となっている。今後、施設の改修も含め、利用方法について、検討中である。現在の管理は、産業公社が行っている。

発言2（意見：話し合いの機会について）

- ・ツイッターを使っている。以前、内記町長が発信していたが、最近は更新していないので、情報発信してほしい。また、このような話し合いの場について、もっと開催してほしい。まちづくりに関わろうと思っても、なかなか関われないので、今どうなっているか、知る機会をもっと増やしてほしいと感じている。何かやりたい、アイデアがある、町内にはそういう人がたくさんいるので、話し合う機会を増やしてほしい。

(町長) 話し合いの場面はこういった形態に加え、何人かで話をするような場も、声がけしていただくとありがたい。企画課か総務課に相談していただくと、日程調整して、できるだけ対応したい。また、町からも機会を作って、声がけしたい。

発言 3 (要望：環境学習ほか)

- 町政懇談会のオンライン配信の実施について、以前に要望したことを実現して頂いてありがたい。
- 西和賀は自然が他よりも豊かと感じている。学び始めたところだが、自然、環境学習が大事である。父親が30年前に移住し、自然観察を行ってきた。定点観測を行ってきたことで、変化が見えてきた。そういう実践者がいるので、子供たちにも伝えていきたい。地域のことを学ぶことによって、外に出たときに、比較ができる。地元出身で、神奈川にいる公園整備の専門家がいるが、その人によると、他の地域の自然環境と比べ、西和賀の多様性は際立っていると聞いている。教育方針に、そういった部分を入れてほしい。
- 8頁に「地域資源を生かし、魅力ある産業のまち」とあるが、企業誘致については、どんなところを想定しているか。4年前、3セクで働いた経験がある。その際、意見があっても言いづらい部分があった。企業を誘致して働く機会を増やすということも大事だが、起業の支援、やりたいことを形にしやすいような支援もしてほしい。現在、ネイチャーガイドとカフェをやっているが、それを通して、面白いことをやりたい人とつながってきている。企業の誘致も良いが、起業支援も大事と感じている。
- JR北上線の維持存続に向けた取り組みについて、実際、年3~4回しか利用していない。実際のニーズがどの程度あるのか、把握が必要と思う。もし、廃線となっても、その場合の対策、滞在時間が長くなるかもしれない、良い面もあるかもしれないので、両方を考え、豊かな暮らしにどう活かすか、検討していく必要があると思う。

(教育長) 森林教育、環境学習については、小中学生を対象に行っている。仙台から移住され、現在家具や木製雑貨等を販売している移住コーディネーターの工藤さんに、木のぬくもりを感じる体験、薪割り体験など、様々やっただけではない。西和賀の山々については、海底火山でできたものが盛り上がっている地形になっており、たくさんの鉱物が出てくるという特徴がある。そこで、親子での採掘体験を行っている。こういった、この地域の特徴を学ぶような取り組みを進めていきたい。また、これまでの調査や研究の蓄積は、図書室に文献として所蔵されているが、あまり生かされていないため、それらを活用した学習を進めていきたいと考えている。

発言 4 (意見：フィールドワークについて)

- オットンドリ、父親が30年前に、西和賀に移住してきたときに里で聞いて感動したという。それ以来聞いたことがなかったが、去年と今年、鷲合森鉱山のところ、夜8時ごろに行ってそれを聞いた。すごく自然が豊かであるということを知ることが大事と感じてる。

(教育長) フィールドワークについては、現地に行く時間帯もあるため、実施が難しい面があるが、ビデオ映像にとったり、写真で紹介したりすることも含めて、情報提供してほしい。

(観光商工課) 企業誘致について、過去にいろいろな経緯があった。具体的な話として表面化するのは、ある程度決まったタイミングとなるので、決まらなかったケースなど、公にならないことも少なくない。以前、問い合わせがあったものでは、養豚場、焼き鳥の加工場があった。これらは、自然環境への影響

が大きいと考えられ、実現に至らなかった。そもそも、どういった企業に来て頂きたいかという、グラウンドデザインが不可欠である。企業、業種に応じて、面積、工業用水の確保、用地の造成費など、経費を総合的に試算して検討してきた。雇用対策としては、個々の事業者がしっかり事業を実施して頂く事も大事である。同時に、企業からの問い合わせもあるので、いずれも大事と考えている。工場誘致による水質汚濁の問題等は、避けたいということで進めてきた経緯がある。

発言 5（意見：起業支援について）

- 人口減少の中で、企業誘致というのは、個人的にはどうなのかと感じている。起業の意向のある人を支援するという、企業誘致でない方向も考えていく必要があると思っている。

（事務局）JR北上線について、廃線となるとは決まってないので、存続を基本に、滞留時間の問題なども、冷静に考えていく必要があると感じている。現在、通学での需要が確実にあるので、利用されていないというわけではない。高校生の足を守る意味でも存続を目指しつつ、考えていきたい。

発言 6（意見：総合計画のあり方について）

- 総合計画については、地方自治法で定めなくてはならないとされている訳ではなく、現在は、定めることが出来るという位置づけではないか。
- 今回のような役場が説明の場を持つのは、場合によってはやめても良いと感じている。そもそも、計画を検討する場合、役場と民間、住民で、協力して作らなくてはならないので、検討段階でもっと協力して取り組んでいく必要があるのではないかと。役場主導で計画を作っても、民間や地域で実際に動く人がいなければ、形にならない。こういう形で、役場から計画内容が示されても、役場で考えて役場がやることになっているのではないかと、受け止められるのではないかと。

（町長）税金をどう使うか、限られた予算をどの分野にどの程度使うか、体系的に事業を進める、その際の体制の問題もあり、総合計画の役割がある。行政内部でいえば、ある意味、マニュアルとしての役割、あるいは事業のメニュー、どれを選んで進めるかという性格もある。問題は、どのように進めていくか。対話、やりとりを繰り返し、お互いに当事者意識を持って取り組んでいくことが大事と考えている。

発言 7（意見：検討の進め方について）

- 役場の方針としては必要だろう。住民と協力して作っていくということであれば、公募の委員を募って、積み上げていくような進め方も必要ではないか。役場が作ったという形で説明している時点で、役場が主体の計画になっている。みんなとやりとりをして作っていけば、当事者意識も高まってくると思う。

発言 8（意見：人材の活用について）

- 役場が、こういうことで稼いでいくぞ、という企画を立てるのは、行政が得意な部分ではないと感じている。新規に事業を起こした場合、半分くらいは3年でやめてしまう。事業とはそういう世界なので、公務員の世界と異なっている。3年間で事業を立ち上げて軌道に乗せるなら、いったん役場から飛び出して取り組み、だめだったら戻るというスタイルもあっても良いのではないかと感じている。このような、うまい形で、役場の人材を活かすことができないだろうか。

(町長) 地域の産業振興、生業の継続は重要な課題であり、向き合っていかななくてはならないと考えている。

発言 9 (意見: プレーヤー人材の必要性について)

- 役場にはデータがあり、補助事業などの情報もある。
- 役場職員として、サポートする立場の人材はいても、プレーヤーがいないので、何人かをプレーヤーに回して担って頂くと良いのではないかと。

発言 10 (意見: 人材の活用について)

- 何かやりたいと考えて、西和賀に戻ってきた。ここなら何かできると考えてきた。雪が好きだし、思い描いていたやりたいところが、ここならできるのではという感覚がある。何かやりたいなと思う人に、西和賀の情報が届くような、支援のあり方、環境づくりを進め、アピールをしたら良いと思う。
- 自分の暮らす町で、仕事を作って、町をよくしたい。自分の居場所を作りたい人もいる。少人数の動きかもしれないが、サポートして頂きたい。

(町長) 話を聞いて、情報発信が必要だということを改めて感じた。

発言 11 (意見: 外部から人材を呼び込むことについて)

- 地域おこし協力隊の将来について、30 人くらい入れたらどうか。町に必要な人材を、分野別に数えていったら、そのくらいになる。その際、住宅の準備が必要と考えて、不動産屋を始めたところである。協力隊員をもっと増やしたら良い。役場だけでなく、地場の企業に所属、個人で事業を起こすなど、様々な形態があって良いだろう。これまでは、基本、役場に雇用される形であった。自分の場合、当初、役場入って、色んなつながりができたので良かった。しかし、2 年目から方向転換するなど、契約内容を変えて、柔軟に取り組んだ方が良いと感じている。
- 国が制度として進めているうちに、たくさん募集したら良いと思う。起業することをめざす人、西和賀の環境で暮らしてみたい人、自分で事業計画を立てて取り組んでみたい人など、色々なタイプの人がいると思うので、それぞれに対応した取り組みが必要と感じている。このような取り組みには、全体で 1000 万円単位の採用のための費用がかかると思われる。
- 西和賀の課題としてもう一つあげると、これまでの経験の蓄積、これまでこういう人を入れて、どのような成果があったのかなど、整理されていないことである。これまでの経験が、生かされていないと感じている。現状の採用形態でも入ってくるので、もっとしっかりと求める人材を明確にして、役場所属か、起業か町内の企業の求める人材など、役場が求める人材を整理して発信したら、望んでいる人材がもっと入ってくる。リクナビを入れ、さらに来た人への相談、支援する人が大事である。
- 数年前、議会でも四万十に視察にいっている。そういった知見を生かして考えたらどうか。

(ふるさと振興課) 今までの流れでいくと、各分野の担い手育成ということになるだろう。雇用関係を持たない形態も含めて、各分野での受け入れを柔軟に進めることは大事と思っている。募集の段階で、しっかりと求めている人材を決めて、受け入れていくことが大事である。活動によっては、そういった設定をしなくても良い場合もあるだろう。

発言 12（意見：企業のニーズに合わせた募集について）

- 企業から、協力隊の制度を生かして、人がほしいというニーズを探って、事業承継を進める余地があるのではないか。温泉の場合、仮に施設整備が必要でも、発信することで、協力隊制度を生かすとすれば、やりたいという人が来るのではないかと考えている。
- 個人的には、宅建の資格を持っている人がこないかと期待している。

（観光商工課）観光振興計画策定の中で、平成 27 年頃、各旅館のヒアリングを行って、後継者の考え方について聞いたところ、子供たちが帰ってこない中、それ以外の人材につなぐという考えの人もあった。そこで、地域おこし協力隊で募集し、観光協会から入って、宿泊施設の運営まで経験して頂くことを考えたことがあった。今後、商工会と連携し、経営発達支援計画の中で、観光だけでなく、各業種について、取り組まなくてはならないと考えている。また、新たな観光振興計画の中では、旅館の経営者について、地域おこし協力隊を入れたく、令和 6 年度より採用することを課内で検討しているところである。

発言 13（意見：事業承継支援について）

- その際、住居だけでなく、生産設備など、起業には様々準備が必要なので、役場と協力して、協力隊を生かして進めたい。

発言 14（質問：議会のネット中継について）

- 三点、質問したい。第一に、議会ででのやりとりについて、現状、ネットでみられるのか。インターネットで、見られるようにしてほしい。ライブでなくても、アーカイブ配信でもよい。
- そこが見えるようにすることで、生の情報を外に出せると思う。情報発信については、協力隊の時から言ってきたが、発信する側の都合で発信してきたように思う。外部からの目についても、チェックする必要があるだろう。外から見て、魅力のある情報なのか、あるいは呼びかけなのか。
- 外部から見て、議会でどんな議論になっているか発信してほしい。まずは、議員さんの様子を見たい。

発言 15（質問：西和賀の特徴について）

- 二つ目は、意地悪な質問かもしれないが、全国で西和賀にしかないものは何か。この町では、地域の価値を話題にする場合、過去にどうだったという内容のことが多い。「どこにもない四季と湯の里西和賀」と謳っているが、実際はどうなのか。ここにしかないこと、もっと明確にしたほうがよい。銀河ホールのような施設は他にもあるが、ぶどう座は、他にない。西和賀は何の町なのか、という点を伺いたい。それを強く出すことで、町のイメージが明確に伝わると思う。
- 三点目、計画の内容が総花的である。果たして、全部できるのだろうか。除雪問題しかり、保育については、川尻保育所では年長組が抜けて人数が相当減るが大丈夫か。指標をどのように設定するのか。全国的な減少の中、どんな計画となっているか。リソースの限界を踏まえた計画も大事ではないか。行政の立場からは、絞り込みを図ることにつながるものとなり、注力する部分を明確にすることにもつながっていくのではないかと。質問ではなく、感じたことだが。

（副町長）今はネット配信していない。

（企画課）ネット中継について、検討はしている。ライブ放送、アーカイブの配信など方法がいくつかあるので、実現に向けて進めていきたい。また、SNS を活用した対話も必要と思われる。

(町長) 指標については、それぞれ施策毎に掲げており、達成度のチェックも行っている。財政面の制約もあるので、リソースが限られているという視点は持っている。どこにもないものというのは、なかなか無いように思っているが、湯田町、沢内村、合併前の特徴、強みを生かし切れていない部分があるように感じている。特徴を打ち出すという問題意識はあり、それに向けた取り組みとなっている。

発言 16 (質問: 対話のまちづくりについて)

- 町長に質問したい。1年間、対話のまちづくりということで取り組まれているが、あまり対話をしているという実感が無いが、十分と感じているか。

(町長) その評価は私自身がするものではないと思っています。私は機会をとらえて対話をしてきているという自負はあります。

発言 17 (意見: 町民の活動への参加について)

- 銀河ホールの検討会、銀活という会議を町民が行っているので、町長にも声がけしていきたい。
- 町長に入って頂きたいときには、是非お願いしたい。
- 銀活については、町長さん、行政の関与も大事かも知れないが、民間での協議が大事という面もある。結論を求める場ではないと考えている。

(町長) 日程の都合が付けば、出席したい。つながり、やりとりの中でアイデアが生まれたり、関係性を作ったりする機会として、大事と感じている。

発言 18 (意見: ツイッターについて)

- ツイッターでの発信、一方的で良いと思うので、人となりや近所の人以外は知らないようなプライベートなことも良いのではないかな。

発言 19 (意見: 話し合いへの参加について)

- 自分はせっかちで、住民だけで話をしていると、実現させたいと考えてしまう。町長や町職員にも入って頂き、話し合えると良いかと感じている。

発言 20 (意見: LGBTQへの対応について)

- もう一点、舞台芸術のプロデューサーの講習会があった。その中で、ジェンダーの扱い、セクシャルティに関して、地方で対応が遅れている実態が指摘された。LGBTQの方々に対応した宿泊施設など、社会教育の分野で、取り組んでほしい。

(生涯学習課) LGBTQをテーマとし、理解に向けた講座について、コロナで中断しているが、取り組んでいきたいと考えている。

発言 21 (質問: 町の今後について)

- 集落支援員の制度が始まっているが、財政や人手の問題、これから先も除雪を続けられるのか、水道の問題とかインフラの問題等を踏まえ、現状のまま町の形が維持していけるのかと疑問視している人もい

るのではない。長瀬野の集団移動の視点など、今から考えていく必要があるのではない。

(町長) 全体的に課題はさまざまありますが、お話しの水道については全国的な問題ですので、それをいかに人口構成や状況に合わせてやっていくかという検討は始めています。除雪についても、重点の置き方を考えてやっていくうえでの計画づくりに取り組んでいるところである。

発言 22 (質問：集落支援員の活用について)

- 集落支援については、地域で関わっている人が少数なのではと感じている。活用できているのか。

(ふるさと振興課) コロナ禍もあり、集落支援員が行事に参加する中で、地域とのつながりづくりを進めるといふ事はうまくいっていないものの、会議への参加によって、関係づくりを進めている。地区の中での課題について、徐々に見えてきており、女性や若い人の声を聞く機会を設定する地区もあるなど、取り組みも始まっている。今後、地域の声を行政に伝える取り組みを進めていく。

発言 23 (意見：今日の話聞いて)

- 湯田の行政連絡員をやっている。実は、今日の会について、役場からの資料を配付したものの、参加が少なくびっくりした。その中で、若い人の意見がたくさんあり、心強く感じた。ただ、中年世代が参加しておらず、次回から、なんとか広く参加を呼びかけたい。
- 5年前、47年ぶりに戻ってきた。総合計画についての認識がなかった。これまでの取り組みがあり、それを踏まえて、これからの取り組み目標が設定されたものと思われる。ただ、素晴らしい内容であっても、今後、進捗状況の検証をする必要があり、次に生かしてほしい。行政だけでなく、住民と一緒に進めていく部分が大事だ。そのためには、いかに理解して頂くか、情報を一方的に伝えるだけでない方法が必要だ。インターネットの活用もあると思うが、あまり使わない世代への広報についてもよく考えてほしい。我々自身も考えていきたい。若人たちから、色々な意見があったが、上の世代についても、経験を生かす部分もあると思われるので、意見を聞いてほしい。また、町を離れて活躍している人、現役で働いている人、退職者、それぞれの知見を生かす部分もあって良いと思われる。外からの客観的な意見も大事と感じている。

発言 24 (意見：参加への声かけ)

- 参加に向けて、もっと声かけをすれば良かった。反省している。次回に向けて誘いたい。

発言 25 (意見：世代を超えた取り組み)

- 年配の方とも仕事上で教わっているので、世代を超えて、取り組むことでできることがあると思う。
- 懇談会の結果についてもHPで発信してほしい。
- 関係人口の人にも関わられるようにしてほしい。

(町長) JRの話しが出ましたが、決して廃線が決まっている訳ではないので、今の段階としては、廃線にならないように、西和賀にとって必要だという部分を訴えていきたいと思っておりますので、それをご理解いただいて、町民と意思を一緒にするような形で運動を展開していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思っております。

町政懇談会 質疑応答・意見の要旨

日時：令和4年12月25日（日） 18:30～20:40

場所：湯田庁舎とオンライン開催

参加者：23名（男10名、女0名、オンライン参加13名）

町出席者：町長・副町長・教育長・ふるさと振興課長・建設課長・観光商工課長・生涯学習課長・保健師長・農業振興課長兼林業振興課長・事務局（企画課長・刈田・高橋）

●意見交換（副町長進行）

副町長の進行で、意見交換が行われた。以下、主な質問及び回答、意見等の要旨。

発言1（質問：前期計画の検証について）

- ・最初に前期の状況について説明頂きたい。現在第2期だが、合併後の第1期からの長いスパンとなるがどのような取組がどのような成果を出しているのか。

（事務局）これまでの取組について、説明したい。

- ・令和2年に町政懇談会を8月と10月の2回開催した。8月は「地域での課題」について、10月は「地域での支え合い」を主なテーマとして意見を出して頂いた。
- ・役場内では令和3年に各課ヒアリングを行った。また、まちづくり住民アンケートを開催した。
- ・令和4年3月に、第1回基本構想審議会を開催し、前期基本計画等について確認をした。
- ・委員の構成は、1号委員は病院院長、2号委員は西高校長、振興局、消防団長、老人クラブ連合会会長、花巻農業協同組合、森林組合、商工会会長、商工会青年部長、観光協会会長、PTA連合会推薦など。公募委員は、公募したが応募がなかった。
- ・庁内のワーキングチームで検討を行った。また、今年度、町内の主要6団体へのヒアリングを行った。これまでに、ワーキングチーム会議、庁内策定委員会等開催し、11月30日に第2回基本構想審議会を開催し、前期基本計画の検証と後期基本計画の素案の承認をいただいた。翌日、議会においても説明し、その後、今回の町政懇談会開催となっている。
- ・役場としては、達成の状況を把握するために、成果指標として78指標を設定している。75%以上達成が31事業、50%以上達成が13事業、25%以上達成が6事業、25%未満は23事業だった。

発言2（質問：続き、成果について）

- ・そういうデータを先にほしかった。今回の計画が、検証に基づいて行われているということがわかった。説明としては、各分野において、どんな成果があったか、伺いたかった。

発言3（質問：できなかった検証について）

- ・達成できなかった指標について、なんでできなかったのか検証しているか。

（事務局）コロナ禍において、人を集めて実施する事業の指標については達成が難しかったという背景がある。

発言 4（質問：効果について）

- ・各目標の達成率指標についての話があったが、実際に数字というのはよくわからないが、どういう効果があったのか、変わったところはあったのか。

（事務局）具体的な個々の目標の達成率については、資料が多くなってしまっているので出していないが、前期の主な取組について、事業効果があったのか、こういった課題があったのか、後期はどのように対応していくのかは検証している。その結果については各審議会等でご確認いただいている。

発言 5（質問：重点プロジェクトの変更について）

- ・この懇談会に来る前に前期計画を見てきた。重点プロジェクトは5つだった。後期は同じ5つだが、項目が変わっている。特に「人づくりプロジェクト」が無くなっている。大いに達成されて無くなったということか。

（町長）基本的には、後期基本計画は、前期計画からの積み重ねで検討させていただいている。第2次総合計画基本構想を作ったときのものを踏襲させていただいているが、後期基本計画では、私の考え方で重点プロジェクトの括り直しを行った。具体的には、本町の特徴である雪を中心に、プロジェクトを整理したもので、人づくりをないがしろにしたわけではない。

発言 6（質問：文化財保護や伝承／景観形成／再生可能エネルギーについて）

- ・7頁（4）文化財には、自然的な文化財と歴史的な文化財があると思うが、どのように適正に管理していくのか。
- ・また、景観形成について、合併前に、湯田町、沢内村で、それぞれ景観形成基本方針を策定し、それらに基づき、条例を制定する方向で動いていたと記憶している。今回の取り組みでは、その時のものを掘り起こして、条例化までもって行ってほしい。
- ・8頁の再生可能エネルギーとは、具体的にどのようなものを考えているのか。再生可能エネルギーといっても色々ある。

（生涯学習課）文化財については、自然、歴史、両方があり、見回りパトロールを行っている。審議会も開催している。自然については樹木が多く、町外に所有者がいる場合は、情報収集を進めている。

（事務局）再生可能エネルギーの具体的なものについては、現段階では限定していない。西和賀は、雪や森林、温泉、水力など自然が豊かであり、ポテンシャルは高いので様々な可能性について検討を深めていきたい。

（町長）合併前の取り組みについては、湯田で景観形成基本方針を策定し、サイン計画にも取り組んでいる。沢内村では、景観形成基本方針を策定し、いずれも条例化を目指して動いていたことは知っている。今回の取り組みでも、目指すところは条例化だ。再生可能エネルギーについては、温泉、森林バイオマス、小水力など有効なものであれば検討を進めたい。また、ダムも自然を利用したエネルギーということで、町に還元してもらえるような方策、制度がないか模索している。そのようなところを合わせて、進めていきたい。

発言 7（質問：続き、文化財・再生可能エネルギーについて）

- 文化財に値するものが町内にはかなりあるので、更に文化財を増やしてもらいたい。再生可能エネルギーは、太陽光や風力など、自然環境への負荷をかけるものが全国的にかなり問題になっている、エネルギーに関しては、地産地消くらいにとどめておいてほしいと思う。

（町長）再生可能エネルギーについては、地域内での循環を考えている。

発言 8（質問：続き、再生可能エネルギー）

- 県のレッドデータ検討委員にはいっているが、西和賀にはAランクの希少植物や生物等があるので、再生可能エネルギーの開発に関しても考慮してほしい。

（観光商工課）自然環境の保全に関しては、自然環境保全条例に基づきこれまでも行ってきており、継続して保全に取り組んでいきたい。

発言 9（質問：町内の買い物環境について）

- 買い物をする場所について、今後のことなど聞きたい。今年になって、新町地区だと松川商店がなくなった。既に、貝沢や川舟にもほとんどない。地域で買い物をする場所が、どんどん少なくなっている。湯本の「オセン」から離れたところは、もっと厳しくなっていくのではと思っている。町として、住民の基盤となる買い物環境について、どのように考えているのか聞きたい。

（観光商工課）観光商工課で取り組んでいる流れについて、説明したい。観光業も商工業も、次々にお店がなくなっている現状は十分理解している。町民にとってかなり大きな事と認識している。今年度から、商工会と町と一緒に「経営発達支援計画」というものを作成し取り組んでいる。その中で大きな項目の一つが後継者対策である。お店を継続するためには、後を継いでもらう人が必要で、事業継承の計画づくりを、商工会が手伝えることで、1店舗でも多く残っていけるように支援している。そのほかに、創業や起業しようとする人に、信金や商工会と連携して創業支援を行っており、北上市にて「経営塾」というものを開催している。町の事業でも、新たに創業する人への補助金を勧めているところだ。

発言 10（質問：続き、買い物環境について）

- このままやる人や新しくやる人が出てこなかった場合、中心地から遠い地区について、どのような取り組みをしていこうとしているのか。西和賀町は、南北に長い町だ。後継者が出てくることや起業する人がいるという前提の計画だけでは、そううまくはいかないのではと思うので、そういうケースについての対応も聞きたい。

（農業振興課）中山間地域への直接支払い交付金に「集落活動の支援に関するもの」が追加された。集落の除雪の支援、買い物の支援ができるメニューなどがある。これまでの営農の部分とは別である。そういったものを活用して、集落で買い物に困っている方の支援に取り組んでいる。いまのところ、交付金利用に13集落が手を上げているが、まだまだ活用する余地がある。農業サイドとして、取り組んでいきたい。

(ふるさと振興課) 地域づくりの観点からは、生活の中で、買い物をする場所はあるが、買い物に行けない方をどのように支えるかということでは、高齢者対象の買い物支援がある。このように、各課の施策を横展開していくことになると思う。まず、集落支援員を配置して、地域の声を聞くことに力を入れている。また、湯本のお店でも後継者がいないなどあり、企業支援も必要であるし、地域おこし協力隊の活用なども検討する余地がある。

発言 11 (質問: 健康寿命を伸ばす取り組みについて)

- online で開いていただきありがとうございます。大学生で北海道にいるので、こういった形を今後も続けてほしい。
- 健康寿命を延ばす施策で、具体的施策には「幼年期～更年期の健康づくり」とあるが、取組の内容をみると、介護予防など高齢者向けの内容となっているように思われるが、実際はどうか。

(保健師長) 幼年期には幼児健診、学校では検診もある。卒業すると職場での健診もある。人間ドックをさわうち病院で健診後の事後指導を含めた支援体制を構築している。生涯を通じた健康づくりに取り組んでいる。

発言 12 (質問: 続き、ライフスタイルに合わせた健康づくり)

- 健康の捉え方だと思うが、生涯スポーツなど各々のライフスタイルなどに合わせた健康づくりということの取り組みは考えているのか。

(保健師長) 月に 2 回、健康大学というものを開催しており、それは、誰でも参加できる。障がい者が参加できる環境というところでは、足りなかったと思う。

発言 13 (質問: 続き、男女共同参画について)

- 男女共同参画の意識づくりとは、具体的にこういったものを指すか。

(生涯学習課) 男女共同参画の推進に向けた第 2 次プランを今年度策定中だが、具体的には、多様性や LGBTQ 等への対応、女性の社会参加の推進をあげている。アンケート調査を行ったところ、家庭内の女性の家事負担の割合が高いという結果もある。

発言 14 (質問: 続き、男女共同参画の意識づくり)

- 意識づくりには、小中学校や、西高も対象となっているのか。

(教育長) 家事負担の 80%以上が女性という調査結果がある。先日、西高で話をする機会があり、家庭科の中で取り上げられるのではないかなど、意見が出た。小中学校では、家庭科、保育をテーマとした内容の中で、すでに時間を設けて取り組んでいる。

発言 15 (質問: 続き、西高での意識づくり)

- 西高 OB であるが、在学中は、日常の中で、セクシャルマイノリティがカミングアウトできる環境ではなかった。今後、そういうことにも対応できるのか。

(教育長) 生徒会と学校と連携してやっていくことになると思う。今は、女性の制服もスカートとスラックスと選択できるようになっているなど、多様性に配慮した形になってきている。そういった日常的な取り組みの中で、意識の変化を促す契機になると考えている。

発言 16 (質問: 関係人口について)

- コミュニティ活動の推進、関係人口について、どのような指標でこの事業を評価するのか。関係人口の概念の難しさ、広さを考えながら、この指標を使った事業をどう評価していくのか。

(ふるさと振興課) 人口減少の中、社会増減もうまくいかない中で、まちづくりに関わりを持ち、何らかの効果を与えてくれる人を関係人口と捉えている。まずは、町の出身者に、それぞれの地域づくり組織の情報をお送りしている。平成 28 年頃から取り組んでおり、3000 人ほどのリストを作っているものの、課題としては、若い方々の名簿をあまり集められなかったことである。

発言 17 (質問: 続き、名簿について)

- 名簿は、申請する形なのか。

(ふるさと振興課) 同級会の幹事さん、家族のつてなどの収集で名簿を作成している。今後は、地域の情報を SNS なども利用して発信していこうと進めているところだ。西和賀町の「西和賀ファン」のリストもある。ふるさと納税で寄付していただいた方に、情報提供、リピーターになっていただく取組も実際に進めているところだ。リピーターについても、関係人口につながっていくと考えている。

発言 18 (質問: 続き、関係づくりについて)

- 関係人口の概念としては、双方の関係づくりが重要と考えている。外の人間であっても、何かあれば、関わってくれる関係が大事である。島根などでは、そのような形を作ってきていると思うが。町外の人「関わりしろ」を、町としては、どの程度考えているのか。その窓口はどこにあるのか。

(ふるさと振興課) 担当課はあるものの、窓口はそれぞれの地域だと思っている。それぞれの地域が受け皿となって、結びつけていく。集落支援員が協力しながら、地域とのつながりを持って行ければ良いと考えている。

発言 19 (質問: 続き、定住がゴールか)

- 関係人口と定住人口は。関係人口はよそ者であり続けるから関係人口だと思う。よそ者だから活性化する。移住すれば関係人口ではなくなる(よそ者ではなくなる)。必ずしも定住をゴールにするわけではないということか。

(ふるさと振興課) 必ずしも移住定住を目的としているわけではない。関係性が大事である。SNS でつながりをつくる。行事や活動に参加してくれる人を求めている。関係性の深まりから定住に繋がる事にも期待している。

発言 20（質問：お出かけバスについて）

- お出かけバスは、あまり乗っている人を見かけないが、財政的な部分で存続できそうか。

（事務局）お出かけバスについては、現在、主に利用している方は、高校生の利用が非常に多い。特に西高生による朝夕の利用が多い。日中は利用が少ないように見えるが、病院への通院や買い物などの利用はある。年間の予算は 3500 万円。財源は、特別交付税で約 8 割、残りが利用負担と町からの持ち出しとなっている。これを継続していけるかということですが、いつまでも続く特別交付税でもないと思われまます。ニーズや利用状況を見ながら検討していかなければならない部分であると認識しております。利用促進については、利用料金を安く設定していること、マイナンバーカード提示で利用料無料化なども行い、利用促進に努めている。

発言 21（質問：続き、バスの大きさ）

- タクシー程度の大きさの車でも良いのでは。回送で走っていることもある。無駄に見える。

（事務局）車両については、今後、車両更新の際に検討していく。回送は、運転手の労働時間の問題もある。利用できる分は、できるだけ利用していただきたいところである。

発言 22（質問：お出かけバスの増便について）

- お出かけバスは無くしてほしくない。冬場は運転を避けたいので、バスを利用したい。しかし、実際には利用したくでも、便数が少ない。例えば、役場職員の通勤にも使えるように、増便してはどうか。財政的には厳しいとは思いますが、もっと便数を増やさないとお客さんも増えないと思う。利便性を向上させることで、需要が喚起される可能性がある。そこで、便数を増やしてみるというのはどうか。今後、免許の返納が進むなどして車の運転ができない人は増えていくと思うし、高齢なので運転してほしくないと思っている家族もいるのではないかと。悲惨な事故が起きる前に何とかしたい。

（事務局）確かに増やしたいとは思っているが、増便することで、利用者がばらけて、一台当たりの利用人数が減るのではないかと心配がある。また、運行の経費の問題もあるので、状況を見ながら検討したい。

発言 23（意見：町職員への定期券支給について）

- JR北上線の利用促進に向けて、通勤手当が現金で支払われている分を、通勤定期券の現物支給に変更してはどうか。そうすることによって、自家用車による通勤から、JR利用への転換を促すことになるのではないかと。

発言 24（要望：人づくりプロジェクトについて／JR北上線の存続／買い物環境について）

- 大きなプロジェクトから消えてしまったが、再検討していただけないか。西和賀デザインプロジェクトユキノチカラは、良い取組だと思う。第 1 次計画では、人づくりのプロジェクトがあり、演劇など文化振興の担い手人材の育成という項目が記載されていた。
- 交通関係では、北上線については、もっとより積極的に、横黒線から 100 年という歴史的な節目が迫っていることから、観光キャンペーンを沿線市町村と連携してやってもらいたい。

- 買い物については、事業者によるところが大きいと思うが、ニーズを役場として捉え直す時に、生協がやっている配達もあるし、移動販売車もある。全国的には「とくし丸」による移動販売などがあり、横手市でも走っている。住民のニーズに、どう応えられるか。置き薬のような感じで、産直に日用品を置けるような取り組みなどがあればどうだろう。具体的な取り組みの道筋を立ててほしい。

(農業振興課) 前向きなご意見ありがとうございます。住民のニーズをしっかりと捉え、全国の事例なども参考に、国の制度メニューをどのように活かすことができるか検討し、町としての取り組みを考えていきたい。

発言 25 (質問: 郷土愛について/懇談会への住民の参加について)

- 6頁(2)「地域との協働による豊かな心」とは、具体的にどういう内容か。今、西高ではアルバイトが禁止されているようだが、西和賀で何かやってる人たちと接点をもつ体験も良いのではと思う。今、旅をしながら仕事ができるしくみなどが、できないかと考えている。
- 事務局に伺いたい。住民懇談会に、どうやったら人が集まると思うか。今回のような役場からの説明に対して、参加者が質問や意見を述べるという形式は、参加しづらいのではないか。前段階での参加、計画案を検討する段階で意見を交わす機会など、もっと身近な機会を設けてはどうか。また、行政と住民をつなぐ、中間支援の機能も必要と感じている。

(教育長) 地域に誇りを持つということについては、地域の役割についての学習、コミュニティスクールとしての運営など、地域に根ざした学びの機会をもっている。中学校では、演劇教室も行っている。森林学習では、色々な方に来ていただいて、薪割りなどさせていただいている。除雪作業などにもふれていただき、キャリアの参考に、考える機会を設けている。小学校であれば農業体験で、田植えから稲刈りまで、できることを少しずつ取り入れているところだ。西高のアルバイトの件に関しては、県立学校ということで、学校の判断でもあり、なかなかこちらから言うのは難しい。また、町内だけではなく、北上等から生徒が来ているところも、時間的に難しいところだ。西高では一人ひとりに応じた指導ということで、1クラスを2クラスに分けて、きめの細かい指導を行っているところであり、その辺の事情はご理解頂きたい。

(事務局) 参加者を増やすことについて、難しいところだ。発信方法、やり方など、できるところから取り組みを進めていく。今回、Web会議という形を取ったが、こういう形も増やしていきたい。

発言 26 (感想: 住民懇談会について)

- こういう機会は大事だ。これからも参加していきたい。

発言 27 (意見: 住民懇談会等の意見のフィードバックについて)

- こういう会議の後、結果がフィードバックされないと感じている。議会に遠慮して、議会で承認が得られないと、町民に出せないという風潮があるように感じている。インターネットを活用する事で、公平に情報を得られるようなやり方はあると思うので、もう少しオープンな形でできると良いのではないか。町議会の中継についても、画像まで要らないが、アーカイブとして、音声と資料程度はウェブ上での公開をお願いしたい。

(事務局) 結果のフィードバックについて、当日すぐお答えできない分は改めてお応えしていく。何らかの形で、公表するようにしていく。議会についても、情報の提供方法について検討しているようだ。

発言 28 (質問：除雪体制について)

- 除雪について。隊員がなかなか集まらないと聞く。ひとりで運転しているケースもある。増えないのは待遇の問題があるとも聞いている。町では待遇を改善していくなど取り組んでいるのか。

(建設課) 除雪作業員の待遇に関しては、県の作業員と町の作業員で給与の部分で大きな格差はない。県も町も同水準の待遇となっている。細かいところでは、年次休暇が違うなどはある。ただ、同水準が高いか安いかわかるということはあると思う。もっと深刻な問題は、町内に人がいないということである。人をどうやって確保するかということ。町内は民間も含めて、人材不足がもうすぐ迫ってきている。そこで、町外から人を呼び込む手立てしかないと考えている。短期的な取り組みとしては、今年から民間委託を始めた。ここ数年は、民間委託が増えていくと思っている。長期的には、町としてどうやって作業員を確保していくかが問題となる。今、県道と町道一帯で除雪できないか、県と協議を始めているところだ。

発言 29 (意見：続き、個人宅の除雪)

- 高齢者が増え、自力で除雪困難な場合、各自で業者に依頼するにしても、経費がかかることになる。高齢者の個人宅の除雪も含めて、検討して欲しい。

(町長) 熱心なご質問、意見・提言、ありがとうございました。雪、買い物、行政手続きでの困りごと等色々な問題がある。豪雪地帯の町であり、現在、克雪計画を立てている。

通院等医療関係については、さわうち病院と連携しながら、コロナに対しても連携しながら対応させて頂いている。

買い物についても同様だが、集落についても高齢化して大変な部分もあると思う。今年度から集落支援員を配置している。中山間地域直接支払交付金を利用している集落もある。利用できない集落は、別途考えなければならないが、模倣してやっていけることもあると思う。

JR 北上線存続の問題、利用促進については、これまで北上や横手、県とも一緒に利用促進をやってきた。国の方の交通政策では、地域で考える方向と認識している。今後も、存続に向けて一丸となって盛り上がっていかねばならないと思っている。

人材育成については、各事業について継続していくことを改めて申し上げておく。

人の集め方のご指摘については、まちづくりのテーマは多岐に渡っている。課題に応じてあり方の改善ができる、集まって頂ける取り組みにしていきたい。今回 online 参加で遠くからも参加頂いた。